

ウミウシってどんな生き物？

柏尾 翔



図 1. アオウミウシ（大阪湾でも見られます）

2021 年は丑年ですが、海の中には“ウシ”にちなむ名のついた生き物が数多くいます。大阪湾だけでもウシノシタの仲間（魚類）、コンゴウフグ（魚類：英語名が longhorn cowfish），“ブラックタイガー”の別名で知られるウシエビ（甲殻類）などさまざまですが、今回紹介するウミウシもそうした生き物の一つです（図 1）。

最近は図鑑や写真集、テレビなどで取り上げられる機会も増えており、自然資料館の来館者でも子どもを中心にその名前を知っている人が少なくありません。

ウミウシとは、なんたいどうぶつもんふくそくごういさいあこう軟体動物門腹足綱異鰓亜綱に属する一群を指します。わかりやすくいうと、サザエやアワビなどと同じ巻き貝の仲間、その中でも貝殻を無くす方向へ進化したグループです。現在、日本には 1,400 種以上が生息するとされており、貝類の中でも多様性の高いグループといえます。また、鮮やかな色彩をもつ種が多く、その美しい見た目から“海の宝石”と呼ばれることもあります。

ちなみに、“ウミウシ（海牛）”という名前の由来は、頭部に角のような 2 本の突起（触角）をもつ種が多く、海底の転石や海藻の上を這っている姿がウシのように見えたからとされています。一方、英語では“sea slug（海のナメクジ）”と呼ばれることが多く、個人的には後者の方がこの仲間の特徴を端的に表しているように思います。

大阪湾にすむウミウシ

大阪湾では 1950 年代からウミウシの研究が精力的に行われてきましたが、そうした場所は日本でも限られています。そのため、大阪の地名にちなむ和名のついた種（図 2）や大阪湾で初めて見つかって新種記載された種が数多くいます。その当時の記録は、標本やスケッチとして現在も博物館で大切に保管されており、かつて大阪湾にはどのような種がいたのかを知る重要な手がかりとなっています。

現在、大阪湾では、わかっているだけで約 240 種のウミウシが見つかっています。その多くが泉南郡岬

町から和歌山市加太にかけて残る岩礁海岸に生息していますが、海水浴や潮干狩りで利用する砂浜や干潟、はたまた漁港やヨットハーバーなど環境ごとに出現する種は異なっています。岸和田市域にある海岸だけでも40種以上が確認されており、その中には外国から日本へ船底に付着して運ばれたとされる外来種や、埋め立てなどで生息環境が減少してしまい、希少種あるいは絶滅危惧種になってしまったものなども含まれています。ウミウシというと、サンゴ礁が一面に広がる暖かい海の生き物というイメージがあるかもしれませんが、実は大阪湾にもたくさん生息しているのです。



図2. ”和泉”の名を冠するイズミニノウミウシ

ウミウシを見てみよう！

大阪湾でウミウシを観察するなら、まずは前述した泉南郡岬町から和歌山市加太にかけての岩礁海岸に行くのがよいでしょう。春から夏ごろは昼間に潮がよく引くので、大潮のときに海岸へ行くと、普段は海中に沈んでいる磯場が現れています。そこにあるタイドプール（潮だまり）で少し水につかった石をひっくり返すと、ウミウシを見つけることができるかもしれません。



図3. ウミウシの常設展示（1階）

また、いきなり海で探すのは難しいけどウミウシを見たい！という方は、ぜひ自然資料館へお越しください。当館では、大阪湾やその周辺で見られるウミウシを常設で飼育展示しているほか（図3）、この2月27日から3月28日にかけて、ウミウシの写真展「うみうし日和～水中写真と羊毛フェルトの海～」も開催する予定にしております。どちらも無料でご覧いただけます。担当学芸員が在館しているときは展示解説も可能です。新型コロナウイルス感染症対策をできる限り講じたうえで開館していますので、安心してご来館ください。

（かしおしょう：自然資料館学芸員）

岸和田は昔話の宝庫（1）. ^{まふくだまる}麻福田丸のおはなし

杉山 優子

はじめに

こんにちは！おじかくらぶです。私たちは、岸和田市で活動する人形劇サークルです。岸和田の昔話のなかから毎年1つ題材を決めて採話、文献や歴史資料の調査を経て台本を作り、人形劇にして地域の小学校、幼稚園、公民館などで上演しています（図1）。

これまで、大沢町に伝わる「葛城仙人」にはじまり「^{えんしやうじ}円勝寺のためき」「天降の面」「掃守連」「夜泣き石」「雷石」「麻福田丸」「酢壺池」「久米田池」を人形劇にしてきました。現在は、南町に伝わる「たこじぞう」を制作中です。これらの話はどれも地域の歴史と結びついているので、地域の学校で上演すると、子どもたちが「ここ知ってる！行ったことがある！」と身近に感じてくれるのがうれしいです。岸和田に伝わる昔話の数は多く、また、どの話もおもしろいのですが、今回は稲葉町の「麻福田丸」を紹介します。



図1. 人形劇上演のようす

麻福田丸のおはなし

この話は、江戸時代に発行された「^{いずみ}和泉名所図会」に絵入りで載るほど有名だったようですが（図2）、今は知る人も少なくなっています。奈良時代、稲葉村で門番の

子として生まれた麻福田丸が、長者の娘に身分違いの恋をし、彼女の導きにより文字を学び、平城京の^{がんこうじ}元興寺で修行をして、^{ちこう}智光法師という偉いお坊様になるというものです。元興寺は現在も奈良市にあり、日本最初の本格的寺院「法興寺（飛鳥寺）」を前身として、平城京遷都とともに奈良に創建されました。中世には日本浄土三曼荼羅のひとつ「智光曼荼羅」がつくられました。智光法師は奈良時代の実在の僧で、「般若心経述義」などの著書を残しています。伝説としても「^{にほんりやういき}日本霊異記」「^{げんこうしやくしょ}元亨釈書」「今昔物語」のなかにも登場し、これらのなかで智光は、行基を誹ったために地獄へ落ち、学友の^{らいこう}禮光に招かれて浄土へ行くという体験をしたとあります。その様子を人々に伝えるために「智光曼荼羅」を作ったそうです。稲葉町の

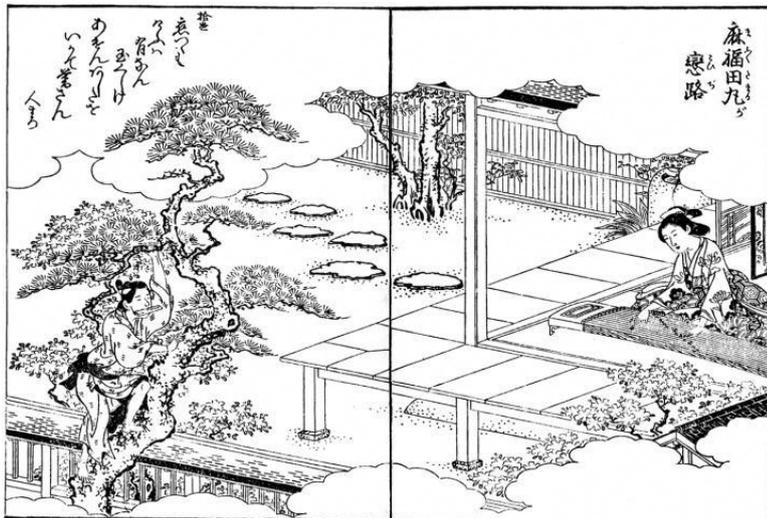


図2. 和泉名所図会中の「麻福田丸」

跡や複数のお寺跡があり、発掘調査でもその一部が発見されています。極楽寺の「大門坊」という名前からは、複数の坊があるお寺を想像できます。そのなかで、私たちは「麻福田丸」という人形劇を演じながら、失敗をしながらも成長していく麻福田丸が、登場人物のひとりという枠を超え、彼の人生をともに生きているような気持ちになりました。

もちろん、歴史的事実と伝承は必ずしも一致するものではありません。しかし、それらを丁寧にたどっ

古老は現在も、麻福田丸を親しみをこめて「まぶたさん」と呼び、麻福田丸の家やまつられている^{ほくら}祠などを伝えています。また、稲葉菅原神社の境内には現在も、「麻^ま福^ふ山^{さん}大^{だい}門^{もん}坊^{ぼう}稲^{いな}葉^え大^{だい}師^し極^{ごく}楽^{らく}寺^じ」というお寺があり、春と秋のお彼岸には智光曼荼羅をおまつりする「曼荼羅まつり」が行われます。今回、調査の過程で、現在は町会所蔵となっている「泉州稲葉村麻福山大門坊極楽寺縁起」^{ちこうしよかんによらいしやうちゆうじげんまんだら}「智光所感如来掌 中示現曼荼羅」を見せていただきました。

岸和田の山手地域の周辺には、奈良時代から平安時代の^{ぐんが}郡衛と考えられる建物の

ていくと、今はなくなってしまった景色に出会えます。私たちは史実も大切にしつつ、昔話を語り継いできた人々の思いも大切に、これからも人形劇を作っていきたいと思っています。

これからも、この fromM のなかで、私たちが調べた岸和田の昔話やその背景を、ご紹介していきます。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

(すぎやまゆうこ：おじかくらぶ代表)

Information

●自然資料館の展示

「うみうし日和～水中写真と羊毛フェルトの海」

殻をもたない巻き貝のなかま「ウミウシ」は、そのカラフルな見た目から海の宝石に例えられることもあり、大人から子どもまで幅広く人気のある生き物です。今回は、大阪湾の近海や沖縄県などで撮影したウミウシの写真を約 30 点展示します。また、あわせてウミウシをモデルに羊毛フェルトで製作した作品の展示・販売も行います。

入館の際にはマスク着用、アルコールでの手指消毒など、コロナウイルス感染拡大防止対策へのご協力をお願いいたします。

会 期：2月27日（土）～3月28日（日）

時 間：午前10時～午後5時

（入場は午後4時まで）

会期中の休館日：毎週月曜日

入場料：無料（常設展への入場には高校生以上 200 円が必要）

●岸和田城の展示

「年中行事からみた岸和田～地域に残る風習～」

年中行事とは、一年のうちで、一定の時期に慣例として行われる行事のことです。年中行事は、時代を経るごとに行事・風習として根付き、私たちの生活に欠かせないものとして受け継がれてきました。今回の企画展では、年中行事に焦点を当て、岸和田に残る地域の歴史・文化を紹介します。

会 期：3月3日（水）～6月27日（日）

時 間：午前10時～午後5時

（入場は午後4時まで）

休場日：毎週月曜日

（4月5日・月曜日が祝日の場合は開場）

場 所：岸和田城天守閣2階展示室（岸城町）

入場料：高校生以上 300 円・中学生以下無料

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5
きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423- 8100 FAX: (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<https://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。